



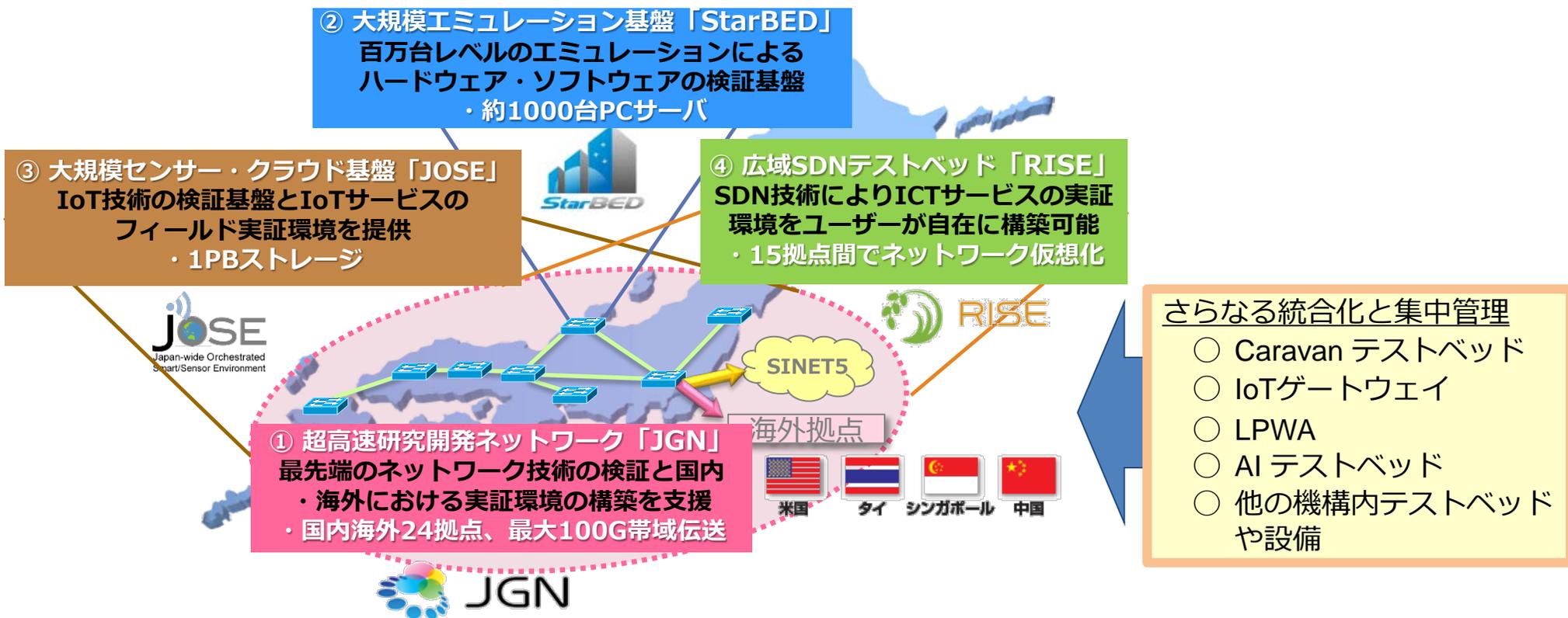
NICT 総合テストベッドの概要

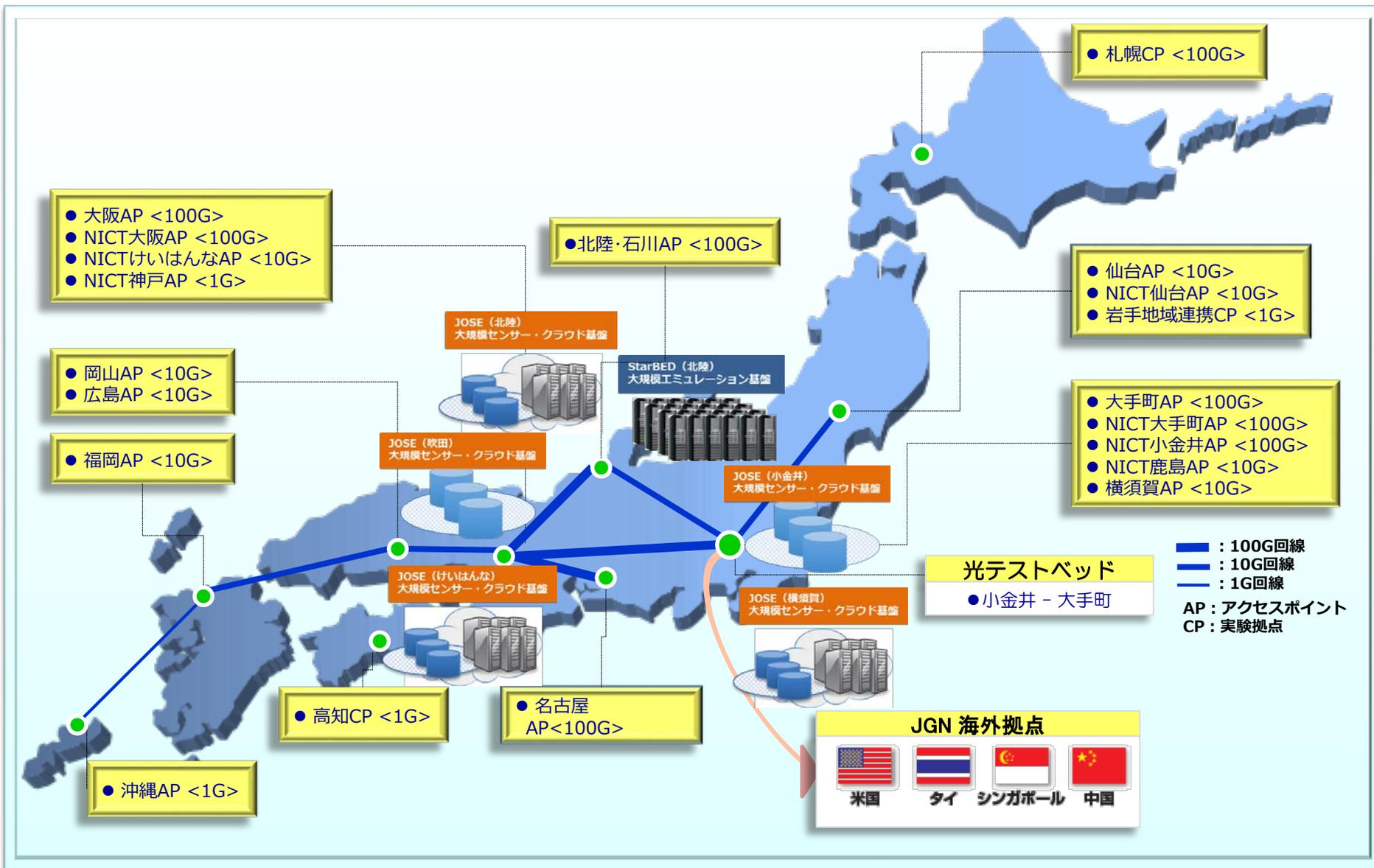
国立研究開発法人 情報通信研究機構
総合テストベッド研究開発推進センター

○第四期中長期計画（概略）

機構内外におけるICT関連研究開発成果の技術実証及び社会実証を推進するためのテストベッドを構築し、その利活用を促進することにより、広範なオープンイノベーションを創発する。この実現のため、以下を実施。

- 機構内の**テストベッドを融合**
- テストベッド利活用の活性化
(**IoT実証**を含め、**技術実証**と**社会実証**の一体的推進が可能なテストベッド)
- テストベッド基盤技術の確立
- 機構内外との連携推進（機構内サービス提供、**海外（アジア）連携**など）







テストベッドの利用を検討

総合テストベッド
ホームページ閲覧

・問合せメールを送付
(tb-info@jgn-x.jp)

1. ご相談者情報
2. お問い合わせ内容 (自由記入)
3. その他 (可能な範囲で記入)

テストベッド事務局から御連絡 & 打合せ

・研究概要資料 (既存作成資料など)

利用の前段階で
試しに使ってみたい方
(テストベッド活用研究会)
※書面の取交し不要

利用申し込みへ

- テストベッド利用申請書
- 研究計画書
- 機関情報



各種テストベッド利用
のお問合せはこちら

NICT総合テストベッドホームページ
<http://testbed.nict.go.jp/>



NICT総合テストベッド活用研究会
への加入申し込み

テストベッド分科会ホームページ
<http://testbed.nict.go.jp/bunkakai/index.html>

テストベッド分科会の推進：新たな取組

(1) テストベッド活用研究会：NICT総合テストベッドの利活用を容易化し促進するための取組

■ 概要：商用クラウド並みの手軽さで利用開始できるよう、お試し利用環境を提供。2017年10月より提供開始

→NICT総合テストベッドの**利用手続の簡素化を実現**

(お試し利用の段階において、書面の取り交わしがなくともメールにての使用開始が可能とする等)

(2) キャラバンテストベッド：IoTのラスト1マイルをサポートする可搬型通信セット

■ 可搬型システム一式を準備し、1か所につき最大3か月のIoTテストベッド環境を構築

- IoT環境が構築できる可搬型システム一式のテストベッド
 - 多様なセンサデバイス（温度センサ、振動センサ等）
 - 通信デバイス（WiFi / LPWA / LTE / 衛星）
 - 可搬式サーバ・エッジノード
 - 非常用電源・大容量バッテリー

→JGN・RISE・JOSE・StarBEDの一体運用はもとより、センサデバイス、通信デバイスの複数機能も組み合わせた価値が見える実証実験の促進

→NICTにあるもので組み合わせてみる



(3) LPWAテストベッド：複数方式のLPWA通信を試験・確認できる実証フィールド

■ 目的：LPWA (Low Power, Wide Area)に関する技術調査、社会実証フィールドを構築し、LPWAを活用したIoT推進をサポートする。

→YRP研究開発推進協会を中心に自治体・産業界も含めた連携の枠組みを構築し、取組を推進

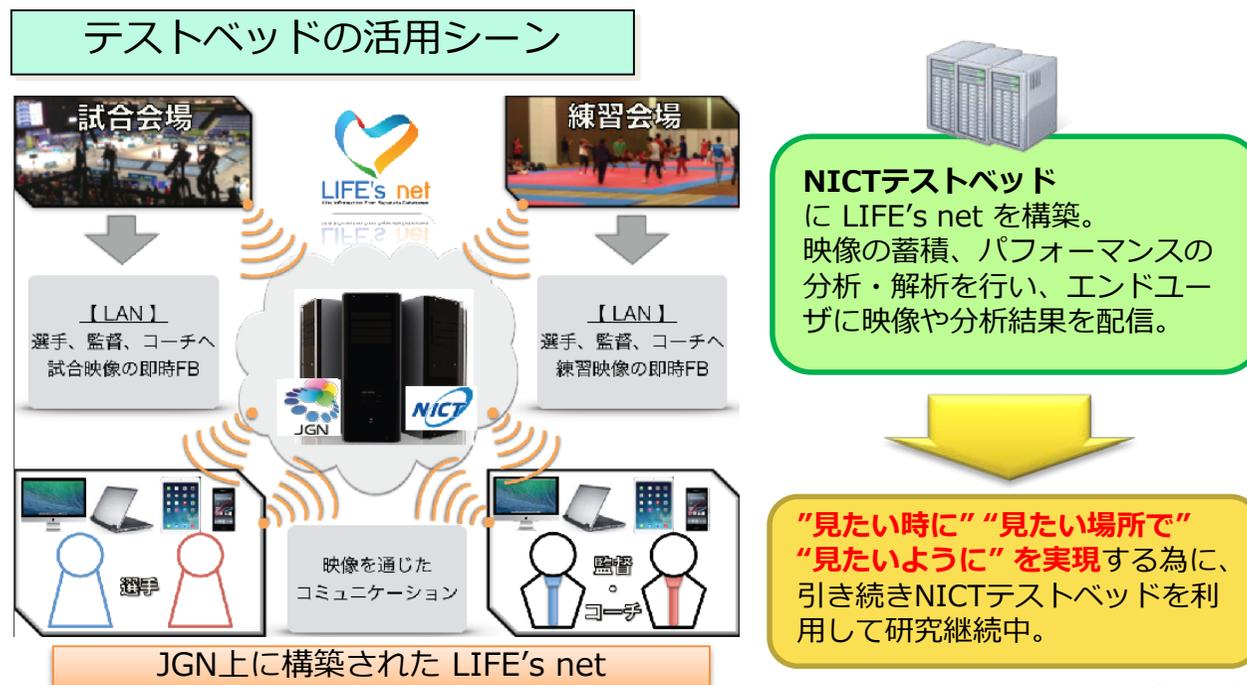
競技団体のパフォーマンス向上を目的とした映像配信に関わる研究

研究機関名：独立行政法人日本スポーツ振興センター

研究の概要：オリンピックなどの国際試合を前提としたハイパフォーマンス・スポーツでは、試合や練習の映像データ活用が必要不可欠。また、競技団体のパフォーマンス向上を目的とした場合、ネットワーク配信を利用した映像データの情報共有が有効な手段。テストベッド上に、映像や分析結果等のデータを一元管理・配信することができるシステム（LIFE's net）を構築。スポーツ分野において、競技団体のパフォーマンス向上を目的として、ここまでの機能を有したシステムを構築した前例は無い。NICT総合テストベッドを利用した本システムは、複数競技において**日本選手の国際大会等での活躍にも貢献**。

→2016年のリオオリンピック・パラリンピックでは、多数のメダル獲得に貢献

→2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けては、IoT・AIをさらに活用したシステム構築を検討中



※一部資料は日本スポーツ振興センターさま発表資料より引用

広域高速ネットワークとクラウド環境を活用した
全国地震データ交換・流通システムの高度化 (JGN-A16001)

研究実施機関

研究機関名：
東京大学、京都大学、東北大学、九州大学、名古屋大学、広島大学

概要 (目標)

研究の概要：

➢ JGNの**広域L2網**を利用して、地震観測研究に携わる全国の研究機関を接続。各機関が観測している地震観測波形データ等を**リアルタイムでデータ交換、流通**すると共に短期間(1か月)のデータ蓄積・利用のため、**仮想マシン**も利用。

全国の地震観測研究機関における、地震火山データの為の基盤的データ交換・流通システムを構築。

成果・目標：

➢ 地震観測波形データが、全国の大学や研究機関でリアルタイムで利用可能。各機関で地震データ交換のインフラとして活用。火山観測や地殻変動観測へとデータ流通対象を拡大。

➢ 関係大学・研究機関の共同研究を推進。

JGNの活用シーン

